

小・中学校への 社会貢献意識の受入れ

マナー・キッズテニス教室の体育授業採用の波及効果

地域の
特色ある
活動

はじめに

平成14年度より、東京都杉並区教育委員会は、地域の方に協力をいただき、学校サポーター並びに学校教育コーディネーター制度を実施しています。学校サポーターとは、地域の方々が、小・中学校に活動するボランティア制度で、大学生などによる「学生ボランティア」、中学校の部活を支援する「外部指導員」とそれ以外の協力者による「学校サポーター」の3種で構成されています。更に、学校の求めに合った外部の力を導入するため教員に代わった人材を、探し、依頼し、交渉し、調整し、実施までを行う学校教育コーディネーター制度を区独自に実施しております。この学校教育コーディネーター制度は全国的にも珍しく、他地域の教育委員会から問い合わせが多くなっています。

企業・団体などからの社会貢献要請

近年、社会貢献気運が上昇することに伴い、企業・団体、個人などから、小・中学校への社会貢献要請が多くなっています。企業の業種などの専門性を総合的な学習の時間などの授業へつなげることで、子どもたちに興味をもたせ、おもしろみのある授業などが繰り広げられています。しかし、こうしたかたちですべての要請が実現できているわけではなく、むしろ、要請いただくもののほとんどが実施できていません。

授業として受け入れるには

例えば、総合的な学習の時間は、「ゆとり

東京都杉並区教育委員会

の中で生きる力を育む」という方向性のもとに、国際理解、環境、福祉など、指導要領の範囲の中で、教員が工夫をしながら実践しています。

授業としての受入れには、学習指導要領というルールを遵守しなければなりません。更に、学校の目標、学年ごとの実施計画、実施内容などの条件にも考慮する必要があります。

こうした学校側の望む授業と実施側の変え方との調整は、担当教員が当たらなければなりません。したがって、企業などの伝えたい思いが大きければ大きいほど、学習指導要領というルールに合わせるための調整の時間が必要となるのです。どんなに優れた取組も、授業として実践する以上、実施する学校の状態や教員の求めた内容であったかが、その評価となってしまいます。杉並区の小・中学校は、これまで、たくさんの企業・団体、個人の方々にご支援をいただきました。支援されたどれもが、どなたかのコーディネートにより実践されたものです。その一つの成功例をここで紹介したいと思います。

三谷小学校でのできごと

平成17年度、取り組むことができた財団法人日本テニス協会の「マナー・キッズテニスプロジェクト」(<http://www.jta-tennis.or.jp/kidstennis/>)です。杉並在住の幼稚園・小学校マナー・キッズテニスプロジェクトディレクター田中日出男氏による要請を受け、区立三谷小学校(大竹久江校長)の全学年全クラスが、授業として実践いたしました。

①三谷コミュニティ・スクール

「あいさつプロジェクト」

三谷小学校は、平成17年度から杉並区教育委員会より「地域運営学校」という指定を受け、学校・家庭・地域が一体となったの学校づくりを目指しています。試みの一つとして「あいさつプロジェクト」を立ち上げました。子どもたちの健全な育成と安全・安心な街づくりを願い「まずは、あいさつから」に取り組みました。

月曜朝会、毎日の校門での子どもたちによるあいさつ運動、「あいさつプロジェクト」ポスターの地域掲示、「あいさつプレスレッド」の頒布が具体的な取組です。

②あいさつの授業

マナー・キッズテニス教室の授業の最初に行われる小笠原流礼法鈴木万亀子総師範の授業は、三谷コミュニティ・スクールの「あいさつプロジェクト」にあいまって、子どもたちのあいさつ向上に役立ちました。引き続き行われるテニスの授業では、スポンジボールを使って、元デビスカップ日本代表などの経歴の皆さんから手ほどきを受けます。三谷小学校の子どもたちは、鈴木総師範に習ったばかりのあいさつで「よろしくお願ひします」「ありがとうございました」と元気よくあいさつをし、コートの中を走り、ボールを追いかけます。体育館の中は、子どもたちの元気なあいさつの声でいっぱいになりました。

③アンケート結果

三谷コミュニティ・スクールでは、1月に行ったあいさつアンケートにおいて、子どもの「以前からしている」割合は平均で36%でしたが、「よくするようになった」「少しするようになった」というあいさつの質が向上した子どもの割合は、平均54%と合計で90%に達したという結果を得ることができました。これは、「あいさつプロジェクト」の目標が一つ達成されたということで、マナー・

キッズテニスと鈴木総師範の授業が、その要因の一つであります。三谷小学校は、平成17年度、区内44の小学校の一番手として、地域運営学校に名乗りを上げました。未知の領域である地域運営学校として、地域の力を一つにして「あいさつプロジェクト」を支え、一定の成果を挙げることができました。

おわりに

このように外部(地域)の力を活用した取組は、それを受け入れる学校側との「相性」が重要なポイントになります。

私たちとしては、三谷小学校の成功例にも学びつつ、各校、各地域の事情に合った学校支援を心掛けたいと考えます。

次なる要請事業は、どの学校とのマッチングで成果を上げるかは、だれにも分かりません。

今後の成功は、様々な取合せの中で、おのずと見いだされることでしょう。

安心・安全という言葉が簡単に崩壊する事件、事故が毎日のように、ニュースなどにより伝えられます。地域の方々が、子どもたちのことを真剣にしかってくれる機会は、もう、なくなってしまったのでしょうか。



いいえ、まだ、あります。いや、なければつくります。三谷コミュニティ・スクールや財団法人日本テニス協会は、地域の力の復活をあいさつという手法を用いて実践します。

これまで、たくさんの企業・団体・地域の皆様にご協力いただきました。

今こそ、地域の学校は、地域や地域の企業、団体、地域の方々などで支えていくことが重要であります。

(社会教育スポーツ課学校支援係主査 小林 淳)